

# 2025 年度 社会学部 学位プログラムの評価

2026 年 4 月 15 日 社会学部教授会承認

社会学部のカリキュラムポリシーでは、学部の学位プログラムについて以下のように定め、定期的に評価・改善することとしている。

学位プログラムの評価は、卒業・進級判定、カリキュラムマップ、科目ナンバリング、GPA の活用、学修行動調査、「3 つの力」の達成度調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。その際、担任制による学修指導の方法や成果及び国家試験対策プログラムの成果等を確かめ、改善する。

2025 年度の社会学部学位プログラムの評価を実施するにあたって、評価に用いる定量的な評価基準（ベンチマーク）として次の 6 指標を設定した（2025 年 4 月 9 日教授会承認）。

1. 卒業・進級判定の結果
2. 各学年の学期 GPA および 4 年生の累積 GPA の分布
3. 学修行動調査の回答結果
4. 各プログラムの修了者数
5. 社会調査士資格の取得者数
6. 社会福祉士・精神保健福祉士国家資格の受験資格取得者数・国家試験受験者数・合格者数

2025 年度の各評価指標の状況と、その改善策等は以下の通りである。

## 1. 卒業判定・進級判定の結果

2025 年度の卒業判定においては、4 年次在籍者 66 人のうち 62 人が卒業を認定された。進級判定においては、2 年次在籍者 52 人中 47 人が 3 年次への進級を認定された（表 1）

卒業要件を充足せず留年となった 4 名のうち 1 名は、休学期間があり修業年限に達していない学生である。残り 3 名のうち 1 名は退学の予定である。

3 年次への進級が認められなかった 5 名のうち 4 名は仮進級が認められた。残り 1 名は留年となる。

表 1 卒業・進級判定の状況（過去 5 年間の推移）

年度	2021	2022	2023	2024	2025
卒業判定合格者	67 / 74 (90.2%)	74 / 79 (93.7%)	57 / 61 (93.4%)	52 / 60 (86.7%)	62 / 66 (93.9%)
進級判定合格者 (仮進級を含まず)	59 / 66 (89.4%)	62 / 70 (88.5%)	60 / 64 (93.8%)	65 / 69 (94.2%)	47 / 52 (90.4%)

2026 年度は、留年および離学の防止策として以下の取り組みを継続していく。

1. 半期ごとに単位取得状況・学期 GPA を確認し、取得単位の少ない学生・学期 GPA が 1.0 未満の学生に対し警告状を送付、継続的な履修指導の対象とする。

- 留年者・仮進級者・上記警告状の送付対象を含めた「要フォロー対象学生一覧」を作成し、対象学生の出席状況等を毎月把握し、教授会で情報共有する。

## 2. 各学年の学期 GPA および 4 年生の累積 GPA の分布

現行の教育課程表に基づく学位プログラムについて、年次・学期による GPA の大きな変動はない (図 1)。4 年生の累積 GPA も概ね山形の分布をしているが、昨年度と比較すると GPA が高い学生が多い傾向が見て取れる (図 2)。

2026 年度は引き続き、開講学年・学期および科目による GPA に大きな差が生じないように、科目の難易度や評価方法に関するチェックと改善に取り組んでいく。

図 1 学年・学期別 GPA の推移

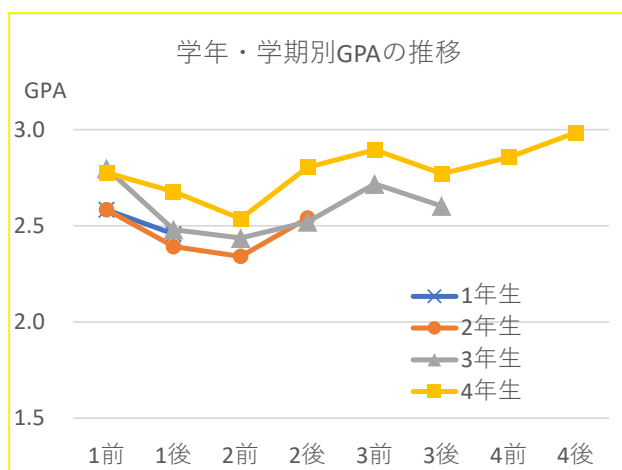
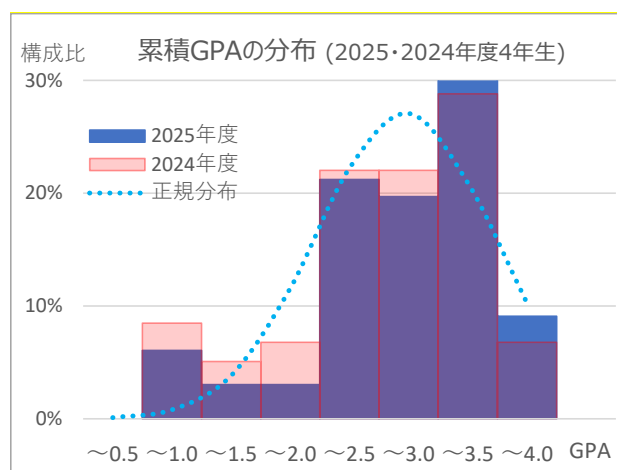


図 2 累積 GPA の分布 (4 年生)



## 3. 学修行動調査 (到達度調査) の回答結果

2025 年度の学修到達度調査結果によると、11 のルーブリック項目の到達度に関する自己評価の平均値は、全項目で 2.7 以上となった (図 3)。「協働する力」(3.1)、「信頼を築く力」「目標に向けて成し遂げる力」(3.0) の 3 項目の自己評価が高かった一方で、「知識・技能の理解」「知識・技能の修得」(2.7)の自己評価は相対的に低かった。

前年度の調査結果との比較では、「表現する力」「計画を策定する力」「知識・技能の習得」で前年度よりも平均値が上回った一方で、「知識・技能の理解」の自己評価は前年度より低くなった (図 3)。

2026 年度は引き続き、学生別の回答結果を本人にフィードバックするとともに、データを蓄積して、キャンパスアドバイザーとの面談や学修計画作成に役立てていく。

図3 項目別の平均値と標準偏差 (2025年度4年生)

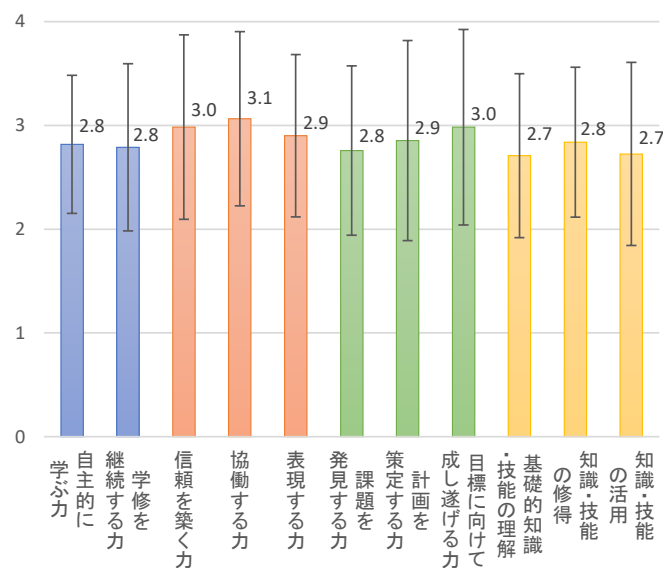
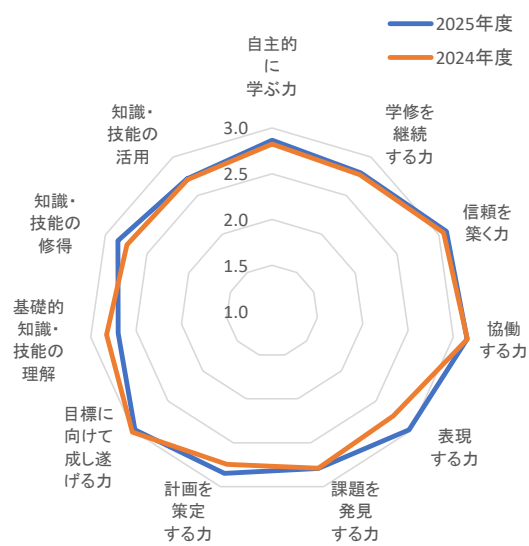


図4 前年度との比較



#### 4. 各プログラムの修了者数

社会学部で開設している「認定プログラム」の指定科目を履修し、修了の要件を満たして卒業した学生は、文化・観光プログラム3名、社会調査プログラム7名、地域政策プログラム8名であった（申請中を含む）。過去の修了者数との比較は表2の通りである。

なお、2025年度からは在学中にも修了認定を受けられるようになったが、在学中の修了認定者は、文化・観光プログラム1名、社会調査プログラム4名、地域政策プログラム13名（申請中を含む）となった。

表2 認定プログラム修了者（卒業生）の推移

領域	2022	2023	2024	2025
文化・観光プログラム	7	4	1	3
社会調査プログラム	3	1	9	7
地域政策プログラム	11	7	13	8

2026年度は引き続き、認定プログラム科目履修および修了申請の指導を進め、専門領域に関する体系的学修の指針および学生の動機づけの手法として活用していく。

#### 5. 社会調査士資格の取得者数

一般社団法人社会調査協会が認定する「社会調査士」資格の申請要件を満たした学生は7名であった（卒業後に資格申請を予定している学生は4名）。過去5年間における社会調査士資格取得者数は、表3の通りである。

2026年度は引き続き、①授業等で社会調査士資格の意義等を紹介する、②ガイダンス等で資格取得の方法について説明する、③資格取得を目指す学生に個別指導を行う、といった取り組みを継続していく。

表 3 社会調査士資格取得者数の推移

年度	2021	2022	2023	2024	2025
取得者数	0	3	0	9	7

## 6. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得者数、国家試験受験者数、合格者数

社会福祉コース卒業者のうち国家試験受験資格を取得した学生は、社会福祉士が15名、精神保健福祉士が5名であった。国家試験の受験者は社会福祉士14名・精神保健福祉士4名、合格者は社会福祉士11名・精神保健福祉士3名であった。

表 4 社会福祉士・精神保健福祉士資格関連指標の推移 (過去5年間)

資格	指標	2021	2022	2023	2024	2025
社会福祉士	受験資格取得者	17	15	13	7	15
	国家試験受験者	12	13	12	3	14
	合格者	2	3	6	1	11
	合格率 (全国平均)	16.7% (31.1%)	23.1% (44.2%)	50.0% (58.1%)	33.3% (56.3%)	78.6% (60.7%)
精神保健福祉士	受験資格取得者	6	2	10	2	5
	国家試験受験者	8	2	10	1	4
	合格者	2	2	4	0	3
	合格率 (全国平均)	25.0% (65.6%)	100.0% (71.1%)	60.0% (70.4%)	0.0% (70.7%)	75.0% (78.2%)

2026年度は引き続き、国家試験受験対策委員会を中心に通い合宿の実施、全国統一模擬試験の受験指導、学内講座・勉強会の開催などに取り組み、国家試験受験者および合格者の増加を目指す。